

2025

SUPER FORMULA
RACE REPORT

Rd.9-10

10.10 [fri] - 12 [sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] sat 雨 / sun 曇り

[spectators] 発表なし



Rd.1-2	SUZUKA CIRCUIT	》》》》》》》》》》	MAR 07-09
Rd.3-4	MOBILITY RESORT MOTEGI	》》》	APR 18-20
Rd.5	AUTOPOLIS	》》》》》》》》》》》》》》》》	MAY 17-18
Rd.6-7	FUJI SPEEDWAY	》》》》》》》》》》》》》》》》	JUL 18-20
Rd.8	Sportsland SUGO	》》》》》》》》》》》》》》》》	AUG 09-10
Rd.9-10	FUJI SPEEDWAY	》》》》》》》》》》》》》》》》	OCT 10-12
Rd.11-12	SUZUKA CIRCUIT	》》》》》》》》》》》》》》》》	NOV 21-23





今大会からドライビングアドバイザーを起用。
2レースとも悪天候のため不完全燃焼となるが、
鈴鹿大会に向けて大きな手応え掴む。

2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round9・Round10が10月11日(土)・12日(日)に富士スピードウェイで行われた。雨のなかで行われたRound9はセーフティカー先導でレース開始を試みたが、天候回復が見込めず2度にわたって中断。結局、12周で途中終了となり、小高一斗が15位、野中誠太は18位を記録した。なおRound10は濃霧により、決勝は中止となった。

KDDI TGMGP
TGR-DC

28

KAZUTO KOTAKA

Driver 小高 一斗

Rd.9

予選 17位

決勝 15位

Rd.10

予選 13位

決勝 中止

Rd.9	予選Q1	P9 (A Gr) / 1'33.552
	予選Q2	-
	決勝	P15 / 2'39.321
Rd.10	予選Q1	P7 (B Gr) / 1'23.151
	予選Q2	-
	決勝	中止

KDDI TGMGP
TGR-DC

29

SEITA NONAKA

Driver 野中 誠太

Rd.9

予選 20位

決勝 18位

Rd.10

予選 16位

決勝 中止

Rd.9	予選Q1	P10 (B Gr) / 1'34.860
	予選Q2	-
	決勝	P18 / 2'35.369
Rd.10	予選Q1	P8 (A Gr) / 1'24.216
	予選Q2	-
	決勝	中止

Rd.9 予選 天候:雨/気温:17℃/路面温度:20℃

決勝 天候:雨/気温:17℃/路面温度:19℃

QUALIFYING



今大会からよりパフォーマンスを上げていくために、ドライビングアドバイザーを導入。国本雄資が28号車の小高を担当し、笹原右京が29号車の野中を担当することになった。さらに、チームも8月のSUGO大会までの反省点を踏まえ、マシンのパフォーマンス向上に注力。その効果が金曜日のフリー走行で表れ、フリー走行2回目で小高が13番手タイムを記録した。しかし、雨模様となったRound9ではその流れがリセットされることになった。ウエットコンディションでは課題が残る部分もあり、小高はQ1Aグループ9位、野中はQ1Bグループ10位で2台共にQ1敗退となった。

RACE



決勝レースも天候は変わらずウエットコンディションに。安全のためセーフティカーの先導でレースが開始されたが雨量が徐々に多くなっていき、6周目に赤旗が出された。およそ30分の中断を経て、再びセーフティカーの先導のもと再開したが、前方車両がまき上げる水飛沫の影響で視界不良となり再び赤旗中断。天候の回復が見込めないことから、レースは途中終了になった。

これにより小高は15位、野中は18位でRound9を終了。ドライコンディションで掴んだ手応えをRound10に活かすべく、挽回を目指し準備に入った。

Rd.10 予選 天候:曇り/気温:20℃/路面温度:23℃

決勝 中止

QUALIFYING

前日の雨は止んだが、コースの一部に水たまりが残っているなかでRound10の予選が始まった。Q1Aグループから出走した野中は、2周続けてタイムアタックを敢行。2周目のアタックでミスがあった影響で8番手に終わりQ2進出はならず。続くBグループの小高は、一時2番手に食い込むタイムを記録したが、その後にライバルが次々とタイムを更新し、わずか0.107秒差で7番手となり、こちらもQ2進出は叶わなかった。



RACE

14時05分から決勝レースに向けたコースインが始まる予定だったが、直前になって突然サーキット全体が濃い霧に覆われた。状況の回復を待って、スタート時刻を遅らせる措置がとられたが、この日は湿度が高かったことに加えて、風がほとんどなかったことも影響して霧が晴れることはなく、15時35分に決勝レースの中止が発表された。

不完全燃焼に終わった大会となったが、ここまでの積み重ねに加えて、ドライビングアドバイザーが加入したことで、苦勞した前半戦の状況を打破できそうなところまで来た。この流れに乗り、11月の鈴鹿大会で、チーム初のポイント獲得を目指す。



28



まだ課題はありますが、
戦えるところまで来ています。

ドライバー 小高 一斗

金曜日のフリー走行では、7月の富士と比べて他車とのタイム差が少なく、Q2進出ラインに届きそうな気配がありました。そんななか、Round9が雨になってしまったことで苦戦してしまいました。そこは引き続き課題ではありますが、Round10もタイヤのウォームアップを含めて、うまくまとめきれていればQ2に行けたと思いますが、今までのレベルよりは確実に上がっていることは実感できました。次戦の鈴鹿に向けて試したいこともあったので、決勝を走れなかったのは残念です。

29



予選でのミスは悔やまれますが、
確実にQ2に近づいています。

ドライバー 野中 誠太

SUGOからの長いインターバルで、チームもいろいろ考えて対策をしてくれたことがかたちになりつつあります。特にRound10の予選に関しては手応えがありました。しかし、アタック2周目のTGRコーナーで右フロントタイヤをロックさせたことで大幅にタイムロスしてしまいました。アタック1周目は4番手くらいにいたので、2周目もまとめきれていれば、Q2に行けるパフォーマンスはありました。



監督
片岡 龍也

金曜日のフリー走行では2台とも手応えがあり、前回のSUGOで感じられた良い部分を今回も確認できました。しかし、Round9が雨になったことで、せっかく良い流れを作りかけていたのに振り出しに戻った感じになりました。Round10の予選では2人ともあと一歩というところがあり、しっかりと力を出しきれていればQ2に手が届くパフォーマンスがあったと思います。課題はまだありますが、車両やチームのパフォーマンスが上がってきていることを確認できた大会でした。















